



使徒の働き 1:-28:

2017.8.8

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">聖霊(教会)の流</p> <p style="text-align: center;">使徒行伝</p> <p>7:-9:31 宮. エルサレム <small>25人, 42人</small> 聖霊降臨 (25人) 十字架 / 十字架 (復活)</p> <p>9:32-12: 異邦人に聖霊 <small>エルサレム 秘しに</small> アンテオケで キリスト (25人+異邦人)</p> <p>13:-14:20 宣教師の <small>2人</small> アンテオケから 諸教会</p> <p style="text-align: center;"><small>(アンテオケ: バルサザラヨネ. 聖言. 12人)</small></p> <p>14:21-28: 証言 エルサレムで証言 ローマで証言 <small>(神の国)</small> <small>(18人はエルサレムに留まり、25人はローマに)</small></p> | <p style="text-align: center;">キリスト(教会)の流</p> <p style="text-align: center;">ルカ福音書</p> <p>1:-2: ダビデの町. 宮. エルサレム. イエスの生まれ</p> <p>3:-9:50 ガリラヤ. 25人 聖霊のバプテスマ ~ 変容. 12弟子を集め. 神国を成す</p> <p>9:51-18:30 エルサレム (42人...) 悪魔. 罪欲と戦う</p> <p>18:31-24: エルサレム. 宮. 証言. 十字架復活. 宮をばさ <small>(ダビデの子 → キリスト)</small></p> |
|---|--|

2014年に使徒行伝の全体の分析をした時には「御霊」と「証言」という2つでした。ユダヤ人、異邦人、ギリシャ人、全世界というように見ていましたけれど、今回分析して変わりました。段落自体は同じですけども、切っているこのパーツ、その繋がりを見方が変わりました。

それぞれ切っているところには、要約文みたいなものがあります。エルサレムからあらゆる国々に増え広まっていく。エルサレムから始まって、ユダヤ、サマリア、地の果てまで証人になりますというような言い方が、区切っているところになると思います。その区切り自体は同じです。

ルカ文学と呼ばれるルカ福音書と使徒行伝、この2つの書物を一緒に見ようということは、その出だしのところを見ても、これはセットだということが分かります。これはルカの2つの書物を一緒に見てねと言われてるところです。どうしてルカに継承されているのかは別のビデオを撮っております。

ルカの方を見ると、イエス様はダビデの町で生まれ、ガリラヤから始まって、ずっとエルサレムに向かっていく、エルサレムに向かっていくというふうに、エルサレムによいよ入っていく、エルサレムに向かっていくというのがこのルカ福音書の流れです。

使徒行伝の方は、エルサレムから始まって、ずっと全世界に広がっていくというような場所的な流れがあるので、外からエルサレムへ、エルサレムから全世界へというふう

に考えて、キアスマスみたいな感じに読むことが多いです。今回は、それよりも内容の並行の方が大切なのではないかということで、別の概略の名前をつけました。

ルカ福音書の方は、「メサイア、かしらが生まれる」。使徒行伝の方は、「からだ、教会が生まれる」という、「かしら(ルカ)」と「からだ(使徒)」が、「メサイアが生まれる(ルカ)」、「御霊によって教会が生まれる(使徒)」という2つ、永遠のいのちの祝福が、メサイアの勝利によって与えられ、その勝利がキリストのからだとしてあらわされるという2つの大きなテーマなのでしょう。

メサイアが生まれる(ルカ)。御霊の降ったことによって、新しいいのち、新しい人が生まれる(使徒)。メサイアの方も御霊の話ですね。

それで(ルカ)聖霊のバプテスマを受けて、栄光のからだに変えられるその変容のところもあります。12弟子を集めて御国の福音を語る。メサイアの働きのはじめ。こちら(使徒)はキリストの教会、からだが始まる。ユダヤ人も異邦人も含めてキリスト人ですという教会が、アンテオケで始まるということです。

3番目は、(ルカ)そのメサイアは戦う、悪と戦う、罪・欲と戦うということをして、エルサレムに入って行くわけです。(使徒)13章から19章のところで、アンテオケの教会が、マケドニア、アカヤ、アジア地方にどんどん教会を作っていく、広がっていくということです。

最後に(ルカ)イエスはメサイアであるということが証言される。(使徒)最後のところで約束の民は教会ですよということがあらわされ証言されるのが、19章21節からのところということです。(使徒)古いイスラエルが死んでよみがえって教会になる。(ルカ)ダビデの子が死んでよみがえってメサイアとなる。こちら(ルカ)はキリスト、こちら(使徒)はキリスト人です。

この(表:ユダヤ人+異邦人)ユダヤ人と異邦人が合わさってキリスト人になっていますけど、ユダヤ人の中も、エルサレムにいるヘブライ語を話すユダヤ人と、各地方に散っているディアスポラのユダヤ人も両方入っています。ギリシャ語を話すユダヤ人達も入っている。異邦人も入っているということです。単にユダヤ人と異邦人がというよりは、散らされていたユダヤ人、イスラエル人が全部戻ってくるし、異邦人も入っている。これを合わせてユダヤ人ではなくて今度「キリスト人とこの人たちは呼びました」というふうに言われている、そのようによばれたことはふさわしいです。ですから、このルカの方はメサイアが生まれる、新しく王座に就くという復活の方です。新しいメサイアが来る。神の国が来るということは、教会が始まる、教会が神の国なんですよということが、使徒行伝であらわされていることだと思われま